



友人の皆さん、

マルタからごあいさつを送ります。ヨーロッパの歴史においてマルタは、数々の勢力が行き交う十字路にありました。それらの勢力がこの島を占拠してきましたが、1964年、私たちは独立を勝ち取りました。私たちの言語や姓は、長きにわたり占領者たちが次々と支配したことをあかししています。このような歴史によって、マルタの人々のDNAには、出会いと多様性に心を惹かれる性質が刻まれているのです。過去において、マルタはいくつかの国に多くの宣教師を送ってきましたが、今は、宣教師を受け入れてもいます。宣教の事業は何よりもまず、人生の旅を歩む仲間、旅人同士の出会いであると私は確信しています。行動は、その次の一歩です。教会のますます多くの人が、異なる物語同士が出会うことの美しさにひきつけられるようにと私は希望し、祈っています。その違いは、豊かさとなるためにあるのですから。私たちがこの出会いを育み、その成長を助けることができるよう、願っています。

Robert SDB

■ 中央・北ヨーロッパ地域
宣教促進コーディネーター
マルタ管区宣教促進担当者
ロベルト・ファルゾン神父 SDB

教皇フランシスコの「宣教」のとらえかた



教皇フランシスコはその教導職において、「宣教事業」、すなわち、古典的な意味での「すべての民への宣教missio ad gentes」について、ほとんど語りません。他方、教皇は、「福音を宣べ伝える使命mission」についてはたびたび語ります（『福音の喜び』）。それは、洗礼のとき以来、私たちに関わる者となった教会の使命です。同時に、私たちはその使命を自分たちの所有物であるかのようには扱うことはできません。なぜならそれは、まず何よりもイエス・キリストご自身の使命であり、私たちはそれにあずかるにすぎないのです。

教皇フランシスコによると、**この福音を宣べ伝える使命は、人が全人的に関与するもので、その人の価値観、人間関係、信仰、生きている世界などを含みます。**したがって、出会い、出かけて行く心の用意があること、また、耳を傾け、真の対話を行う度量があることを前提とします。それは、自らの回心の努力のうちに、利他的な姿勢、相手を受け入れること、あらゆる形で示されるあわれみのうちに顕われます。それは主に内面的な姿勢であり、したがって、**福音宣教missioをあらゆる形の機能主義から解放すること**が、とても大事です。福音宣教は、何か活動を行うこと、つまり、忙しく働き、何かを組織したり、建設したりすることが主ではありません：そうではなく、福音宣教は、キリスト者としての考えや行動の地平、真の生き方なのです。それはキリスト者が感謝をこめて神から受け取る贈りものです。なぜなら、私たちはそれを頂くに値しない者であるからです。同時に、キリスト者は、多くの人がそれにあずかることを望みます。この姿勢は、キリスト者と、暮らしている共同体を変容させ、徐々に周りの人を変えていき、周りの環境全体を変容させるのです。

フランシスコにとり、全教会は、空間と時間の中で生きる神の忠実な民として運動のうちにあります。なぜならそれは、**最も動いて動いておられる方、三位一体の神のみわざ**であるからです。この、神ご自身のうちにおける運動は、宣教の運動を支える土台でもあります。ですから、教会の中にこの運動のための条件が無いなら、何も動かなくなり、教会は停滞し、「朽ち果てる」ことになります。

したがって、フランシスコの福音宣教のビジョンをどのように表現できるかと自問するなら、教皇にとって鍵となる次の概念を私たちは用いるでしょう：**出会う、出かけて行く、あわれみ深い奉仕。**フランシスコによると、宣教師は弟子であり、弟子は宣教師です。すなわち、信仰を通してイエス・キリストと出会い、キリストに呼ばれ、人々へと遣わされる人です。その人は、神の言葉をもたらし、人々が神の愛に近づくことができるよう、人々に出会いたいと願います。そこで、人々に出会うため出かけて行き、一人ひとりその人の状況の中で、あわれみ深い心で人々に仕えたいと望みます。キリストにおける満ち満ちたいのちに向かって歩めるよう助けながら。

■ サレジオ会宣教部門
バヴェウ・ジェニシエ神父, SDB

振り返りと
分かち合いのために

- サレジオの宣教活動において、どのような機能主義の例が見られるでしょうか？
- どうすれば、「出会う、出かけて行く、あわれみ深い奉仕」の姿勢を成長させることができるでしょうか？



パナマの若者たちの中で、 「共に在ることの秘跡」を生きる



アレックス、首都に2つの共同体「しか」ないサレジオの存在は、パナマの社会でどのように知られ、とらえられていますか？

パナマのサレジオ会は、この地に来て116年の間に、国の発展に大きく貢献し、教育と司牧を推進する存在になりました。そのことは、現在、2つの共同体がこの国にもたらしている影響のうちに見ることができます。ドン・ボスコ大聖堂は司教区で最も重要な小教区の一つで、ドン・ボスコへの信心の大きな中心になっています。毎年、何万人もの巡礼者や信心に篤い人々がここにやって来ます。ドン・ボスコ技術訓練校は、常にパナマの技術教育の要となってきました。

パナマの若者が手にできずにいる、最も欠けているものは何でしょうか？

若者が直面する最も深刻な問題は、非行、組織犯罪、学校中退、機会の欠如、貧富の大きな経済格差などです。私たちの国の180万人の若者の中に、ある種の落ち着きの無さを感じることができます。より高貴な目標に従う国を建設したいという願いを達成しようとするとき、若者たちは大きな不確かさに直面します。パナマの若者の熱意を再び燃え立たせるために、私たちは一貫性のあるモデルを必要としています。

あなたの国の宣教的な次元は何だと思えますか？

現在、キリスト教はまだパナマ社会の支柱でありつづけています。しかし、世俗主義や消費主義などの潮流もあり、それらはある種の個人主義や快楽主義、宗教・信仰とかかわりのないグループへの所属を促します。このことから、パナマの神の民を世話する教会の宣教活動は、秘跡に方向づけられたものであるだけでなく、民、特に若者に耳を傾け、共に歩くことにも方向づけられ、彼らがリーダーシップを担えるようにしなければならないと、私たちは理解するのです。

私たちはサレジオ会員として、自分の信仰と召命をあかしするよう呼ばれています。パナマ人サレジオ会員が、現在、5人しかいないという現実には、単なる事実として受けとめるだけではいけません。このことは、カリスマを根づかせるためにさらに努力するよう、私たちを促します。私たちは人々・若者の中で「共に在ることの秘跡」を生き、私たちの召命の美しさをあかししなければなりません。また、恐れることなく、召命の提案を言葉に表して若者たちに示し、より幅広い地平へと開かれるよう若者を助けなければなりません。



アレックス＝ヘスス・ピニヤ・ヒメネス, SDB

私はドン・ボスコのサレジオ会員です。私の国パナマの首都、**パナマ市**に今もある学校で、私はサレジオ会と出会いました。

ドン・ボスコの家に足を踏み入れた私は、呼ばれていると感じ、生涯ここにとどまろうと決めました。2016年に初誓願を立て、今年、9月2日に終生誓願を立てました。

2021年以来、私は**ローマ**で、セフェリーノ・ナムクラ共同体（ブファロッタ）に暮らしながら神学を学んでいます。



サレジオ会員の枢機卿

2023年9月30日、枢機卿団の枢機卿の人数は242名となり、そのうち教皇選挙権を持つのは137名となりました。50名の枢機卿が諸修道会・宣教会に属し、サレジオ会が10名の枢機卿を擁し、最も多くなりました。そのうち、私たちの総長を含む4名が、選挙権を持っています。

有選挙権者

Ángel Fernández
Artime | 63, スペイン
Daniel F. Sturla
Berhouet | 64, ウルグアイ
Cristóbal López
Romero | 71, スペイン
Charles Maung Bo
| 74, ミャンマー

非有権者

Oscar A. Rodriguez
Maradiaga | 80, ホンジュラス
Ricardo Ezzati Andreollo
| 81, チリ
Angelo Amato | 85, イタリア
Tarcisio Bertone
| 88, イタリア
Raffaele Farina | 90, イタリア
Joseph Zen Ze-kun
| 91, 中国

11月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

教皇のために

パナマのサレジオ会、パナマの全教会が、
いつも教皇に忠実でありますように。

使命を遂行する教皇のために祈ります。聖霊の助けにより、
ゆだねられた群れと共に歩む道を歩み続けることができますように。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

パナマのために

